

# インド 回想



## 1, はじめに

## 2, 多様な文化

- 1) 歴史
- 2) 宗教
- 3) 2大叙事詩
- 4) カースト制
- 5) 高等教育

## 3, インド、ビジネスの経験

- 1) インド経済政策の変化
- 2) TVSE社へのプリンタ技術供与
- 3) ソフトウェアビジネスの実績
- 4) インドIT人材の確保について

## 4, インド旅行記

- 1)、インド、最初の旅  
バンガロール、
- 2)、インド、4回目の旅  
・ バンガロール、
- 3)、ゴールデン・トライアングルの旅  
・ ニューデリー ・ アグラ ・ ジャイプール
- 4)、インド最後の旅  
・ ムンバイ、ゴア、

## 5, あとがき

# 1, はじめに



- \* インドは不思議な国である  
ゼロを発見した偉大な国である。その思考力は仏教の発生に関係があるのかもしれない。  
インドの小学生は19x19を暗算で覚えている。
- \* 人口数は来年、世界第1位の14億人に達する見込み。
- \* 使用されている言語は  
ヒンディ語 57%、英語 10.6%、ベンガル語 8.9%  
紙幣には15種類の言語で数字が印刷されている。
- \* 私はインドと仕事(プリンタ技術の供与とソフトウェアビジネス)を通じて延べ17年間、深い関係を持つ事が出来、8回もインドへ旅をした。
- \* 今回は、旅の旅情に限らず、過去のビジネス経験を含めて思い出を綴ってみたい。

## 2, 多様な文化

### 1)、 歴史

- インドは長い歴史を持っているが  
纏まった大国としてスタートは、  
第2次世界大戦後の独立から。
- イスラムの侵入、イギリスによる  
植民地化があり、パキスタンとの  
係争は、まだ続いている。
- アーリア人の侵入で始まった  
カースト制度が、インドの歴史に  
大きく影響した。

| 前2000頃    | インダス文明の繁栄                   |
|-----------|-----------------------------|
| 前1, 500頃  | アーリア人の進出                    |
| 前 528     | 仏陀が仏教を開く                    |
| 前 268     | アショカ王仏教を擁護                  |
| 4～6世紀     | ヒンズー教成立                     |
| 10世紀      | イスラム教がインド進出                 |
| 1, 200    | 仏教ビクラマシー大僧院がイスラ<br>ム教徒により破壊 |
| 1556～1605 | ムガル帝国の最盛期                   |
| 1600      | イギリスが東インド会社設立               |
| 1857      | セポイの反乱                      |
| 1856      | ムガル帝国滅亡                     |
| 1919      | ガンディ、不服従運動開始                |
| 1947      | インド・パキスタン分離独立               |
| 1950      | インド共和国成立                    |
|           |                             |

## 2、宗教

### ① 仏教

- ・前528にシッダルタがバラモンの権威に対する革新運動で仏教を開いた。  
権利の平等と中道性を説き、輪廻転生を否定した階級社会を否定し、  
生き物は全て平等と教えた。
- ・前268頃、アショカ王が仏教を擁護した。  
仏教の急速な拡大は、祇園精舎を寄進した大富豪スダナ等のパトロンを獲得したから。



- ・しかし一般民衆を軽視した結果、衰退した。  
ヒンズー教の要素を取りこむ密教で再興を  
図ったが、防げなかった。
- ・11～12世紀にかけて、イスラム教徒が略奪を  
目的としてインドを襲撃した。
- ・1203年仏教教団最後の拠点 ビクラマシ  
ラー  
寺院がムスリム軍に破壊されたことにより、  
僧院組織は壊滅し、インド仏教は幕を閉じた。
- ・ガンダーラ、中央アジア、西域、中国、韓国、  
日本では、世界の宗教として発展した事との  
落差は、とても大きかった。

## ② ヒンズー教 80%

前1,500年頃、インドに侵入したアーリア人が信じていたバラモン教の聖典、制度を引継ぎ、土着の神や崇拝様式を吸収して形成された多神教。輪廻や解脱等の特殊概念を持ち祭儀(冠婚葬祭)を重視。仏教に対抗する理論と文化を築き、パトロンを奪い返して勢力を挽回した。ビシュヌ神とシバ神が双璧。

### \* ビシュヌ神 (維持の神)

慈悲深く、温厚、公正。  
色々な化身に変化し世の中を救済。



### \* シバ神 (破壊の神)

額にある第3の目から発する光で  
すべてを焼き尽くす。



## \* ガネーシャ神

シバ神の子供で、象の頭を持つ。  
シバ神の 神姫の垢から生まれた。  
シバ神はその事を知らず、ガネーシャが  
煩く騒いだので、頭を切断してしまった。  
神姫が戻ってきて驚き、頭をつけるよう  
シバ神に頼んだ。  
シバ神は、それでは最初に通рикかった  
者の頭をつけてやろうと言った。  
最初に来た者は象だったので、ガネーシャ  
には象の頭が付けられた。

富と繁栄、知恵と学問を司り、人気のある神。



## \* クリシュナ神

悪王カンサを滅ぼすためにビシュヌの化身として  
生まれた。民衆に人気。



## \* ラクシュミー神

(吉祥天)

美と富と豊穡の神。  
ビシュヌの神姫

## \* 釈迦

ビシュヌ神の9番目の化身と  
されている。



### ③, イスラム教 13%

570年にアラビアのメッカでマホメットにより興された宗教で、8世紀にインドへ伝わった。

唯一無二の神アッラーを信仰しマホメットを通じて述べられた神の啓示を集めたコーランを守ることとされている。

信仰の告白、礼拝、断食、喜捨、巡礼の5行を守らなければならない。



#### \* シャーマー マスジット

オールドデリーに立つインド最大の

モスクで、ムガル帝国5代皇帝シャージャハンにより1656年竣工。

赤砂岩と白大理石のコントラストが、とても美しい。



#### ④、キリスト教 2.5%

ヨーロッパの宗教革命が始まった後、イエズス会を中心に宣教師が派遣され、当時ポルトガル領だったゴア等を中心に信者が増加した。ゴア州やケララ州に集中。ウ“アスコダ ガマやザビエルもこの時期にインドへ来た。

- ・ ゴア最大で美しい セ・カセドラル と パナジ教会

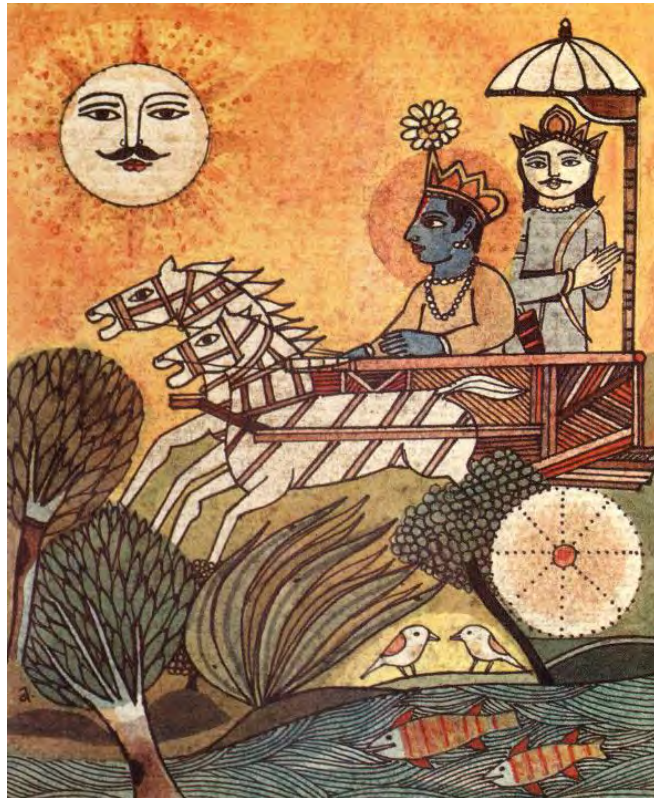


### 3)、二大叙事詩

古代文献の中で、インドの思想、哲学、宗教で重要な役割を果たし、ヒンズー教の聖典として重視され理想の生き方を教えている。

#### ① マハーバーラタ

\*パガバットギータ – 最も重要視されている18章



- ・紀元4世紀頃、バラタ族の国の王族の確執を描いている。
- ・王族同志の戦争で、同族や師と争う状況に戦意を喪失した王子アルジェナと、戦車の御者でビシュヌ神の化身であるクリシュナの対話が描かれている。
- ・アルジェナは ”親族を殺すよりも自害した方が益し” だと言う。  
クリシュナはそれを諭し、知識の眼をもって、対象を見抜く事を教えている。

## ② ラーマヤナ

紀元3世紀頃に成立した壮大な物語。 インド、東南アジアで親しまれている。



- ビシュヌ神の化身として生まれたラーマ王子が、継母の奸計で森へ追放され、妃スィータは羅刹のラバァナに誘拐される。
- 猿の将軍ハヌマーンがラーマ王子を補佐し、最後には羅刹を打倒し王国に凱旋する英雄譚。

• 猿の将軍ハヌマーンがラーマ王子とスィータ妃に忠誠心を示しているところ。

#### 4, カースト制

- カースト制は、インド独特の身分制度で、前1,500年頃アーリア人が侵入征服した時、4層の身分に分割する制度を施行した。  
それ等は、司祭、士族、庶民、隸民で、その後不可触民(アンタッチャブル)が加えられた。
- 更に職業による分割が行われ、カーストの数は、2,000～3,000 にも数えられた。
- 職業は世襲で、結婚は同じカーストの中で行われる事が原則。  
掃除の仕事を例にとると、箒を使う人は雑巾を使ってはいけないようである。
- カースト制は近代化を阻む諸悪の根源とみられ、法律上では廃止になったが、未だ継続。
- 都市化やIT産業の進展で人の移動が活発化して、カースト習慣を守る意識が薄れて来た。
- 低カーストに対して、入学、就職、選挙等で優先枠を設ける優遇措置も整ってきたが、反動も出ている。



## 5, インドのエリートと高等教育

- インドビジネス活動で多くの ビジネスエリートと仕事をした。  
彼らの多くは、IIT(インド工科大学)卒業生で仕事ぶりは、優秀だった。
- 独立後インド政府は、高等教育に注力したが、モデルにしたのはMIT  
(マサチューセッツ工科大学)だった。  
この計画は大成功で世界NO,1クラスの人材が量産されている。  
(ex. Google— サンダ ・ ビチャイ、 Micro Soft ・ サティア ナダラ、)
- IITへの入学競争率は1%レベルのようだ。



IIT ムンバイ校舎

### 3, インド・ビジネスの経験

#### 1), インドの経済政策の変化

- インドは共和国として独立後、政府による規制と管理に基づく社会主義経済政策を採っていたが、国際収支がどんどん悪化し、1980年代後半には危機的な状況に落ち込んだ。
- 1991年に湾岸戦争が勃発して、原油価格が高騰し、ラジブ・ガンジー元首相が暗殺された。
- そこで、国民会議派のナラシムハ・ラオ政権が経済自由化の政策を打出して、劇的な変化による経済の活性化が始まった。
- インドは外国の技術を国営企業が導入する方法を、最初は進めていた。  
私が勤務していたシチズン時計では、腕時計の技術を国営企業のHMT社 (Hindustan Machine Tool) にライセンスする事業が、1980年代に始まっていた。
- TVSグループはインド16番目の企業で、スズキ自動車から2輪車の技術を受け成功していた。
- 私はその頃プリンタ事業部に所属していて、  
インド企業へのプリンタ技術供与に深く関わった。



## 2)、TVSE社とのプリンタ ビジネス

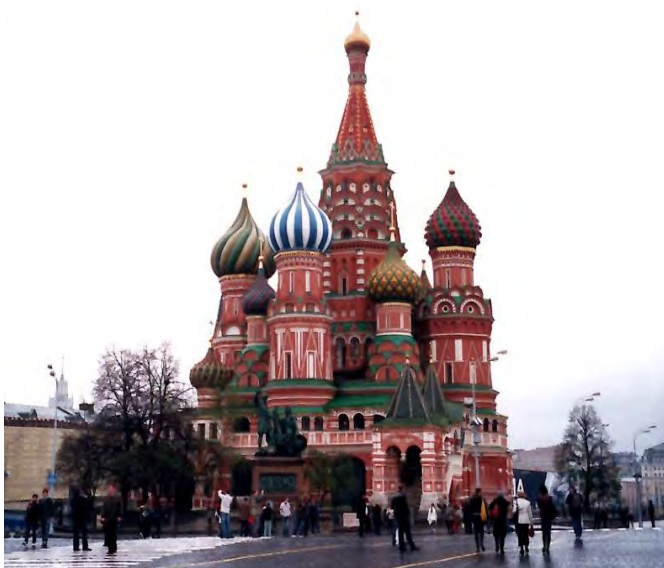
- ・私のインドビジネスは1987年の夏、インドの TVSE社の責任者 Mr.Gopalと NO.2のMr,Ragueが、HMTの紹介でシチズンに来社し、プリンタの技術供与を申し出て来た事から始まった。  
Mr,Gopal はTVSグループTop の子息で、創業計画中のTVSE社の社長になる人だった。
- ・TVSはインド 1 6 番目の企業グループ。  
シチズンからプリンタ技術を導入し、それを核に周辺機器事業を展開する構想だった。
- ・当時シチズンはプリンタ新製品の商品化に注力しており、余力は無く社内で反対意見もあったが、将来性を見込みMr.Gopal の熱意に影響されて、技術供与を行う決定をした。
- ・インド政府の認可の規制が厳しくて、意見調整に時間はかかったが、1987年契約に達した。
- ・この契約は、両社に素晴らしい WinWin の結果を齎した。  
TVSEは、プリンタシェア NO1,となり、シチズンもハッピーだった。

◎ Gopal さんは、私がシチズンの次に勤務した GRADCO (USAの会社) をリタイアした時、Harita (TVSEの子会社) が展開するソフトウェアの仕事をやらないかと誘ってくれた。 とても嬉しく感謝した。



## ◎ TVSEへの ロシア ビジネス 応援

- TVSEのプリンタ生産が軌道に乗った頃、ロシアは未だソ連の時代だった。  
当時、ソ連の経済状況は最悪で、外貨を持っていなかったのも、インド経由でビジネスを行う方法がとられていた。インドはソ連から兵器、原子力装置を買っていたから。
- TVSEからロシアビジネスを行いたいからと、シチズンへ応援の依頼が来た。  
“ロシアの見込み客に、シチズンプリンタの強さ、特徴、実績等を、説明してほしい”と。  
私は1989年9月、TVSEのMr.Raghu, Mr.Ramaiya に同行しロシアへ行く事になった。
- ビジネスでは取引条件が難しかったようだが、私が初めて見たロシアは酷かった。



### \* 1989年 ロシアでの経験

- 入国審査員は兵士だったが、タバコ等を要求した。
- 入国後、ルーブルに両換したが、国営ホテルでもルーブルは拒否され、ハード・カレンシー(外貨)を要求された。
- モスクワから50km以遠に出る事は禁止だった。
- 帰国で予約していたVirgin Air の便が勝手にアエロ・フロート便に変えられていた。
- Duty Free での買物で、釣銭を胡麻化された。
- 食事で良く食べさせられた御馳走はチョウザメのムニエル(キャビアを採った後の魚肉)

\*\* でも付き合ったロシア人は、良い人達だった。

### 3)、私のソフトウェア ビジネス実績

#### ◎ Harita ビジネス

- TVSEから ソフトウェアビジネスの誘いを受けた時、未経験分野なので戸惑った。  
しかし、TVSEはその時、トヨタ自動車のボディ設計とCAD変換 の実績があった。  
“ 技術的なバックアップは、全てTVSEが行う。私への期待は、新規ユーザーの獲得”
- 新規ユーザーの獲得については、それまでの人脈から、かなり自信があった。
- 結果としては、下記のごとくで、大きな成功では無かったが、中位の成果だった。

\*HR社(冷房機メーカー) ——— クーラーの組込み設計、Mold Flow解析

\*KM社(印刷機メーカー) ——— 印刷機械のCAD変換 (Solid Works)

\*HZ社(製本機メーカー) ——— 製本機械の組込み設計、White Box Test

\*JE 社(ソフトウェアハウス) ——— 工作機械ディスプレイの組込み設計

#### ◎ Blue Star ビジネス

- 某社の大きなプロジェクトを1件行った。

“半導体製造装置のソフトウェア“



• 京都祇園で芸者さんと（熱心な客からの接待）

#### 4)、インド IT人材の確保について

(6.18 朝日新聞記事からの考察)

- デジタル庁が開設された。
- コロナ禍でオンライン業務が増えてきた。現在、ITエンジニアの不足は30万人だそうである。
- 朝日新聞では、インドでの人材争奪戦を報じていた。

◎私がソフトウェア・アウトソーシングの仕事に関係していたのは、2008年のリーマンショック迄。  
14年以上経過して、変化したのは先ず仕事の中身のようなだ。

以前は、組込みソフトや CAD変換 が多かったが、今はインターネット、とモバイルが中心のようだ。

- NTTデータはインド高度人材をインドで25,000人国内で35人。

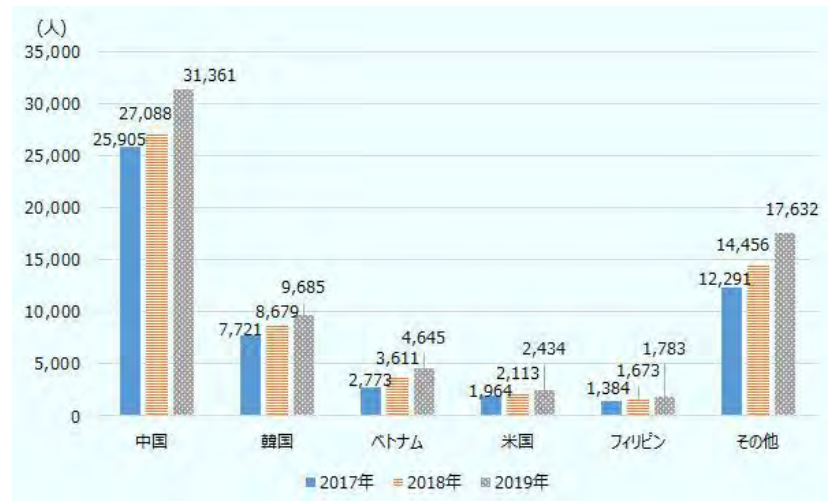
デジタル案件の増加に伴い、2025年までにプネ拠点人材を現在の300名から数千人の規模にする目標だそうだ。

- 楽天のインド高度人材数はインドで3,000人、国内で150名。

◎ 一方、外国人IT技術者数は、2019年迄だが、インド人は多くない情報もある(下表)

- On Sight (客先で働く)か Off Shore (インドで働く)か は不明。

◎ 能力の高い技術者(高度人材)は、先端技術の仕事を、普通レベルの技術者は通常の仕事を分担？



## 4，インド旅行記

### 1)、インド最初の旅 1987、9

TVSとの交渉は、数回日本で行われたが、中々両社の合意に至らなかった。  
インド政府の規制に対応する契約を纏めるためにKさんとインドへ行った。



バンガロール

Windser Manor Hotel



## Bangarole

広い工場建設予定地を見せられ、合理的な契約交渉を通じ、  
一気に契約締結に近づいた。

- Tumkur  
TVSE 工場建設予定地  
60,000 sqft



## Bangarole

- Wellcom Party



## \* Dinner



- ベンガル湾のロブスター美味しかった。



## \* インドのフルーツ

- パパイア  
毎朝食で食べていた。  
美味しかった。



- 椰子のジュース  
ドライブの途中で



## ◎ Banga l ore

### \* マハトマガンジー通り

この通りの店でTVSEから私の娘へと赤いシルクのサリーをプレゼントされた。



牛は神聖な動物

## Belur

Tumkurの先のBelurに、小さいが素晴らしい寺院があった。  
Chennakeshava Temple で、Vishnu神 を祭っている。



**\* マングースと蛇の決闘**

**マングースは強い。**

**村人は蛇がひどく傷ついたと言って、割増チップを要求した。**



## \* マハバリプラム

### ・ ガンガーの降下

ガンジス河が天上から落下した様子  
を描いたレリーフ



### ■ クリシュナのバターボール

象が引っ張っても  
動かなかったそうだ

## 2)、インド 4回目の旅 2001, 4

### \* バンガロール



- 標高900mにありITや機械製造等の産業で 発展した。
- 関係が深かったTVSE社の本社所在地で何回も行った思い出の地である。

カルナタカ州庁舎

バンガロールは美しい街である  
朝の散歩は、楽しかった。



メインストリートを外れると、そこには一般市民の生活が広がっている  
花輪を売る少女は可愛かった。



## ◎ 再び Tumkur へ

Mr.Kannan は製造部門のチーフ。 長いつきあいだった。  
上海でも会ったことがあった。  
工場敷地内に ジャック・フルーツの木があった。  
御馳走してもらったが、爽やかな味だった。



## Bangalore でインドの歌を聴く

ミニコンサートを聴く機会があった、  
魂を揺さぶられるような素晴らしい  
歌を聴くことが出来た。



あるホテルの中にある インド料理  
レストラン。ここでも素晴らしい歌が  
聴けた。



### 3), Golden Triangle の旅 (2004, 8)

息子にインドを見せておきたくて、一緒に旅をした。

仕事の現場も経験させたかったし、良い旅を楽しみたかった。

Golden Triangle は デリー ・ アグラ ・ ジャイプール ・ デリーだが、  
バンガロールでの仕事を先にかたづけた。

#### \* International Tech Park 見学

- ・ インドは、Softwear の開発で、  
質、量 共に世界一であろう。
- ・ バンガロールには、インド政府が  
応援しているソフトウェア開発  
センターがある。
- ・ 見学した時には、アメリカの GE,  
MicroSoft, Google 等多くの  
企業がそこを利用していた。  
日本からの進出は2社。





## Harita訪問

共にビジネスを戦ったMr.Badagandi と Mr.Parthasarathy  
に

TVSEでMeeting.

Mr, Badagandi は定年を迎えるとのこと。 紳士で大好き  
な人だった。

マイソール案内の車を出してくれた。

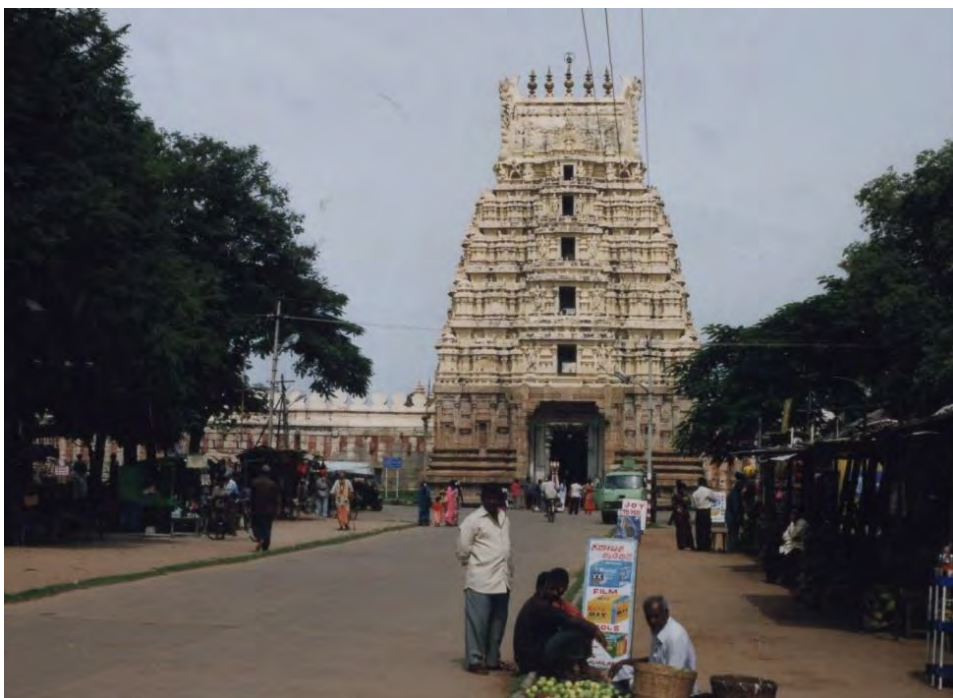


## \* マイソール

- マイソールは、バンガロールより140km離れている。  
元はマイソール藩王国だったが  
1799年、イギリスとの戦争で消滅



- ◎ マハーラジャ宮殿  
インド、サラセン様式の華麗な建築  
内部も素晴らしい。



## ◎ ヒンズー教の寺院

- ・ ドライバーに案内されて、中を見学した。

突然、ヒンズー教の僧らしい男が、こちらを向いて怒鳴った。

“異教徒は出て行け！”と。

インドでは宗教上の対立は残っている  
(主にヒンズー教とイスラム教)

## ◎ ゴールデン・トライアングル

デリー — アグラ — ジャイプール — デリー



## \* ニューデリー

### ◎ フマユーン廟

- ムガル朝の皇帝フマユーンを偲んで妃が1565年に建設
- この建築様式は、アグラのタージ・マハルに継承された。

## ◎ クトゥブ・ミナール

- ・ ラーイ・ピタウラー  
ヒンドゥー寺院  
の遺跡に立っている。
- ・ 透かし彫りの壁が見事である。



## ◎ コブラの踊り

0



- インド門の近くで“蛇使い”を見つけた。
- チップを弾んで、コブラの踊りを見学。
- コブラは首を振って、上手い踊りを披露してくれた。
- “蛇使い”は、カーストの一つである。

# \* アグラ



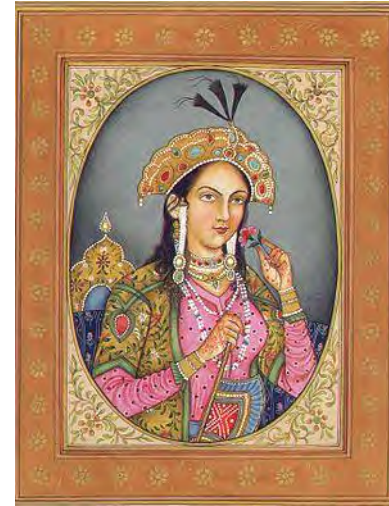
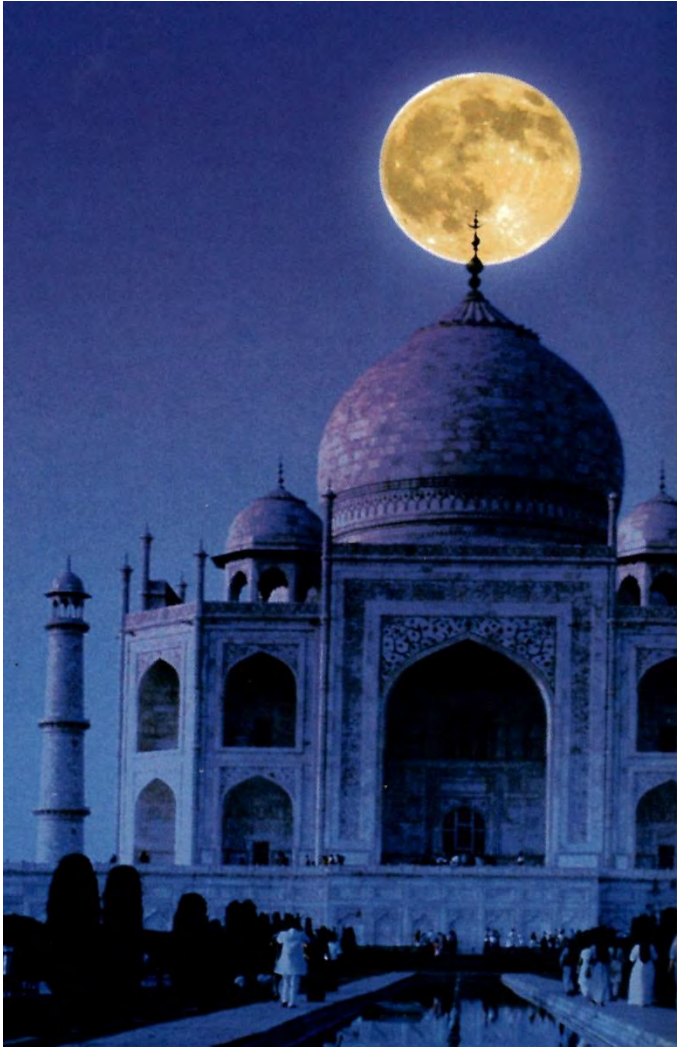
» w  
o  
n  
d  
e  
r  
f  
u  
l

## ◎ タージマハール

- あまりの美しさに驚嘆。
- 皇帝シャー・ジャハーンが愛妻ムムターズ・マハルの死を悼み、建立した愛の記念碑。
- 白い大理石に宝石が嵌め込まれ透かし彫りが施されている。
- 皇帝は川の対岸に自分の墓を同じ形の大理石で作る望みを持っていた。

## ◎ 月夜のタージマハル

月夜のタージマハルが最高だとも言われている



## ◎ アグラ城

1

- ムガル朝3代皇帝のアクバルが建設。
- 赤砂岩で出来ており、“赤い城”の名がある。
- シャーザーハンはここに有終幽囚され小部屋からタージマハルを眺めて時を過ごした。
- 黒大理石で同型のタージマハルを作る構想は、実現しなかった。





## ◎ 辻音楽師

- チップを弾んだら、満面の笑顔で、ポーズを作ってくれた。
- 使っている楽器は“自分で作った”という。
- 彼は歌も上手かった。

## ◎ ファティプルシクリ



- 幻想的廃墟となってしまったアグラに飽きて皇帝は新しい城を築き遷都をした。
- しかし水不足のため数年で立ち去らざるを得なくなった。

◎ 街道にて  
街道はかなり渋滞する。  
それを待ち構えて、大同芸人達が、得意技を披露する。

- 熊と猿



- 3人で頑張る



## ◎ 象の突進は迫力満点





## ◎ 農婦と子供達

我々の接近を感じて  
農婦は顔を覆った。  
見知らぬ人には顔を  
見せない風習がある  
そうだ。

- 子どもにはチップを渡した。

# \*ジャイプール<sup>1</sup>

## ◎ 雨のジャイプール

- ジャイプールに近づいた時、雨が降って来た。雨は次第に激しくなってきた。
- 雨に打たれて歩く人たちのサリーがカラフルで奇麗だった。





## ◎ ジャイプールでの夜

- ジャイプールの宿は  
Jai Mahal Place  
以前はマハラジャの館
- 広大な庭では白孔雀が  
舞っていた。
- 夕食後、宿泊客への  
もてなしで、  
火祭りの踊りを見せて  
くれた。

## ◎ 風の宮殿

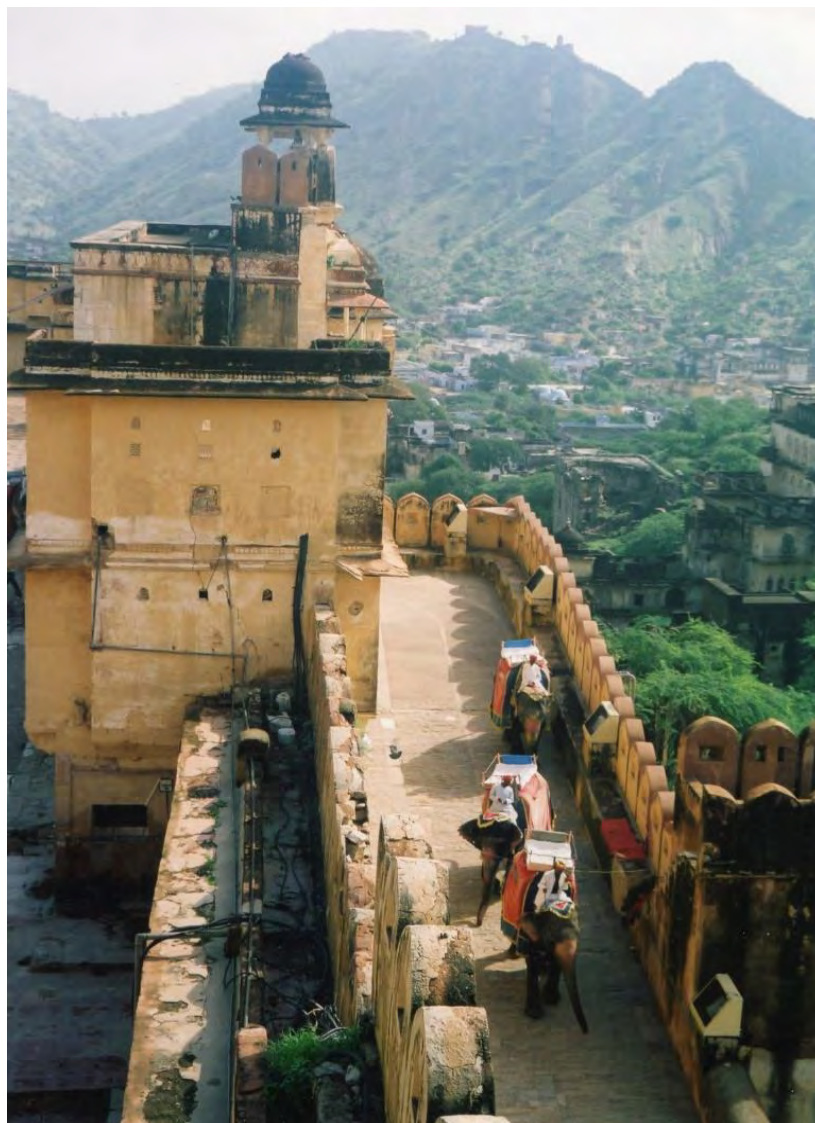


奥行きが非常に浅い5階建。  
透かし彫りのスクリーンを付けた  
テラスがひが東側一面にあり、  
宮廷の女性達が、ここから街を  
眺めたという。

## ◎ 象のタクシー



- アンペール城へは象のタクシーで坂道を上る。
- 熱心な物売りが一人安値をオッファしながら象と離れずついてきた。
- 坂を上り切った時、あまりの熱心さを感じて土産物を買った。  
価格は半値になっていた。



## ◎ アンペール城

- 象が城への坂道を上って来る。  
疲れを見せずに、力強く。
- 象と象使いのチーム・ワークは素晴らしい。



## ◎ 老音楽師

- ・アンペール城の壁の前で  
老音楽師が休んでいた。  
貫禄充分で周りを威圧  
していた。  
歌を聴きたかったが、  
時間が無かった。
- ・良い写真が撮れたと思う。



- 仕事を終えて、2泊3日の旅。  
デリー大学卒のガイドが案内  
してくれる車をチャーターし、  
ホテルも最高クラスを選んだ。
- ちょっと贅沢だったけど、  
とても良かった。

思い出に残る楽しい旅だった。

## 4)、 インド最後の旅 2007, 4

### \* ゴア

#### ◎ ボム・ジェス教会

- ゴアはフランシスコ・ザビエル  
終焉の地でポルトガルの元植民地
- 司馬遼太郎は、もしザビエルの  
来日が遅れたら、日本の歴史は  
変わっていたと言っている。
- チェンナイでの仕事が終わる  
スケジュールに恵まれたので、  
一人旅でゴアを訪ねた。



## ◎ ザビエルの遺骸

ザビエルは中国で死亡した後その遺骸はゴアに運ばれた。  
遺骸は痛まずミイラの状態でボム・ジェス教会に安置されている。  
10年毎に開帳されている。

25



## ◎ 赤い布を売る少女



## ◎ ゴアのナイトバザール

ゴアは、以前ヒッピーが居付いた処である。

丁度うまくナイト・バザールが開かれていて、仲良くなった  
タクシーのドライバーに誘われて、見に行った。楽しかった。



## ◎ カンチーンプラム

仏教が盛んだったころ、大きな仏教寺院が有り、三蔵法師も来ている。

今はヒンズー教の寺院が多く有る。

\* エーカンベラナータ 寺院



## ◎ マハバリプラム(再訪)

カンチンプラムの近くに、海岸寺院がある。  
それぞれ一つの岩を削って山車としての寺院に  
見立てた五つの石彫寺院がある。



ここには、石を削り磨いて像を作る学校がある。  
素晴らしい作品を作っていた。



## 5, あとがき

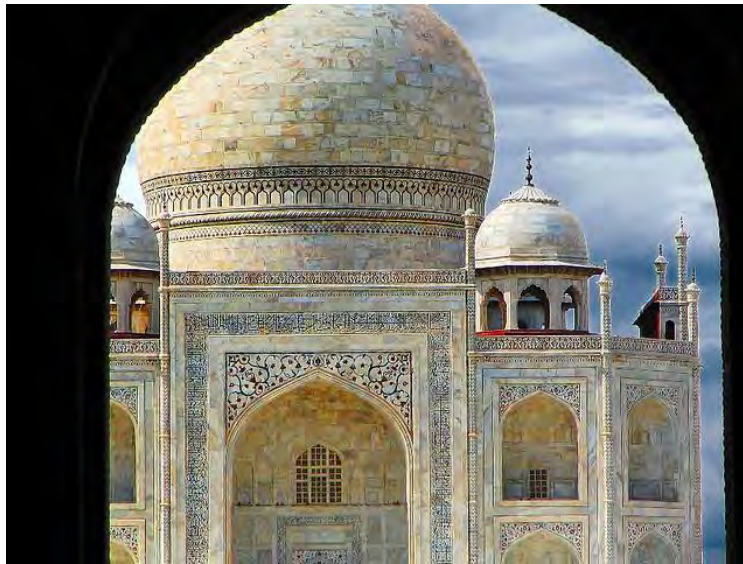
今回の“インド回想“は中々構想が纏まらなかった。

インドとのビジネスの縁が切れてから14年経過し、その間に大きな社会の変化が起きていたからかもしれない。

以前付き合っていたインドの人たちは、どうしているかな？ としきりに郷愁を感じている。 最後一言、

”インドと、インドの人達と 付き合えてとても良かった。”

完



糸を紡ぐ ガンディ